

## 令和7年度 第7回江北町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年11月7日（金）14：00～15：00
- 2 場 所 公民館2階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

### 【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	牟田 久俊
3	教育委員	浪瀬 隆一
4	教育委員	江崎 陽子
5	教育委員	溝口 泰弘
6	教育委員	田中 薫

### 【こども教育課・学校づくり推進室】

番号	役 職	氏 名
1	課長（兼室長）	坂元 弘睦
2	課長代理	峯 清美
3	係長	金原 広和
4	主査	山口 香奈
5	主任指導主事	内川 梨恵子
6	主事	成清 大介

### 【事務局：総務政策課】

番号	役 職	氏 名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	課長代理	小野 政己
4	係長	大塚 健司

- 4 議題 (1) 第4次江北町教育大綱（案）について  
(2) 学力向上の報告

---

○開会（山中課長）

## (1) 第4次江北町教育大綱（案）について

### 【山中課長】

教育大綱を変更する場合は、予め総合教育会議で協議する事となっているため提案する。

### 【山田町長】

町長が総合教育会議において協議調整、教育委員会と連携・協力し了承を得て教育大綱を策定する。教育大綱の期間は教育長の任期と同じ3年に変更した。

#### 1. 学力の向上

- ・江北町の子どもたちは、学校外での学習習慣がついてない。学習力状況調査にも影響、家庭学習の向上。
- ・昨年から取り組んでいる英語は、江北町含め佐賀県全体が低い。学習習慣を身に付けるテーマとして英検受験等に力を入れる。

#### 2. 部活動の充実

- ・合同部活動の浸透、実効性を高める。
- ・部活動の地域移行のための基準を作る。次年度に向けきちんとした情報提供をする。

#### 3. 環境の整備

- ・ソフト、ハード両面の環境について整備する。
- ・ハードの面で、小中学校の修繕（今年度から順次取組）。

B&Gの体育館・トレーニングセンターは議会でも話題になり、これらは基本的に廃止したいと申し上げた。だが、組織としては整理できていない。組織として落とし込むことが必要。合わせて老人福祉センターも廃止したい。ただ廃止するばかりではなく、まだ構想の段階であるが、全天候スポーツ広場は、他の市町と比較しても、江北町の強みとしてその機能を強化していきたい。

### 【浪瀬委員】

部活動の充実ということは、指導者の問題も入っているのか。合同部活動をするために指導者が必要、地域の認定基準作るために、指導者が必要なのかも含まれているのか、指導者の確保を打ち出すのか。

### 【山田町長】

書いてないからやらないではなく、部活動の充実をさせるためには、当然指導者の要請・確保は必要。これだけではなく他に何が必要か。

指導人材の確保等記載するのか、検討して次回最終確認したい。

**【田中委員】**

合同部活動とは大町だけとの限定なのか。バレーボールがしたいから、バレーボール部がある白石中学校に行きたい子どもがいると聞いた。大町町だけでなく、他の市町との合同があるのか。

**【山田町長】**

大町町との合同部活動の充実との記載であれば大町町だけだが、部活動の充実を図る手段として、合同部活動という方法がある。江北町のように、近隣に市や町がある町にとっては、非常に有効な手段。特に制限はない。大町町は似たような状況だったので進めた。白石町はご承知のように、自分たちでやっている。しかしそういうことで、他の中学校に行かれるというのは残念。

**【牟田教育長】**

相談は受けた。希望で有明町の方に社会体育で活動され、レベルの高い大会にも出られる方で、白石町の方のチームに友達もたくさんいるので、白石町に区域外就学をしたいとの申し出があっている。

白石町との協議の中で、通うより区域外就学をしたいとの、保護者の意向も強く、そこは尊重している。

**【田中委員】**

今、なくなっている部活は復活させない。ということだったが、他の所に行くのではないか。

**【山田町長】**

どうしてもと言う事であれば仕方がないが、部活だけが理由ということであればまず話をしてみるのが大事。

**【溝口委員】**

環境の整備で、改修するよりは解体の方が、費用等の面で致し方がない。その後の活用の面で、検討段階に入っていないといけないのではないか。

また、大綱とは関係ないが、花山球場にタバコの吸い殻が散乱していて、それぞれ持ち帰ってくれたらよいが、環境が悪化しているようで、喫煙所があった方がよいのではないか。

**【山田町長】**

その通りだと思う。花山球場については他の方からも意見を頂いた。教育委員会

の方で、確認をして報告するように。

**【浪瀬委員】**

大きな項目に詳しく補足・説明を入れていくのか。

**【山田町長】**

これで全部。あまり細かく書くと指令書のようになる。教育委員会としてこの3つは、知恵を出し合っていないといけない。

**【田中委員】**

学力の向上で、家庭学習習慣の向上の前段階で英語力の向上といたら、小学校高学年・中学生向けになるが、それより下の、幼稚園園児・小学校低学年に向けては、生活習慣を整えるよう、大綱の中に入れての方が良いのではないか。

**【山田町長】**

検討する。学習習慣が身につくとは、学習が生活の一部になっているということで、どんなイメージで大綱に書くか協議する。しかし、これらは書かれていなくても当然やるべきこと。学力を向上させる、部活動を充実させる、さらにいうなら、子どもたちにいろんな体験の機会を充実させる。そして環境の整備につながれば良いのではないか。

**【江崎委員】**

家庭学習の家庭の言い方を、学校外学習に変更することはできないのか。

母親の負担が本当に多く、プレッシャーも大きくなる。

- ・ 去年から家庭学習の量が多くなった。
- ・ 漢字も一言一句見て、丸付け等に追われる。

**【山田町長】**

学力の向上といえば、「学校が何とかせよ」という意味合いが強いが、調査によると、江北町は学校外学習時間が如実に少ない。それを受けて保護者の負担まで増やすかは、やり方次第。お互い丸つけ、町内放送で家庭学習の励行を声かけする等方法はいろいろある。

**【田中委員】**

学習の主役は、学校でも家庭でもなく子ども。だから子どもが自主的に、勉強したくなるような方法はないのか。今はあまり競わない。漢字を書いたらシールを貼っていくとか、シールを集める習慣から家庭学習の習慣が付けば、苦にならないのかなと思う。

### 【山田町長】

善政競争。他を蹴落とすのではなく、良いことを競って行うこと。良いことをすれば、全体に良いことが広がる。これが本来はできるはずだが、今は国、文科省、県等がいう事だけやっておけばよいという雰囲気がある。それで免罪され、だから結果が出てこない。今回そういう意味では、英検は自分たちの学習マインド、モチベーションにつながる仕掛けになったかと思う。勉強しろと言わずに勉強させる方法はないか。だからこの3年間は、教育長・教育委員会へのミッションまたはこんなことを一緒に実現する期間と言える。

## (2) 学力向上の報告

### 【牟田教育長】

10月3日開催の英語検定の結果の概要について報告する。

令和7年度 第2回【10月3日（金）実施】

令和7年度受験級一覧表および受験結果【1次試験】

《江北中学校2年生、3年生》

- ・学年ごと、各級ごとの受験者、合格者、合格率

#### 【2年生】

- ・5級と4級で合格率はそれぞれ76.6%、80.0%と高水準
- ・3級と準2級の受検者は少数（3級：3名、準2級：1名）で、いずれも合格しており、上位級への挑戦者が実力を発揮している

#### 【3年生】

- ・3級の受検者が最も多く（30名）、合格率は53.3%。中学校卒業レベルの目標級として多くの生徒が挑戦している
- ・5級と4級の合格率は63.2%、57.7%で、2年生に比べて合格率が低い傾向にある
- ・2年生の合格率は3年生より高い
- ・試験前の学習会はこれまで4回開催した。学習会参加者の合格率が高くなっている。また2次試験の対策として、試験前に3回勉強会を行う予定

### 【江崎委員】

- ・対策学習会では、過去問に取り組み、実践的な学習内容であったため、子どもたちの意欲につながった
- ・小学校英語担当教諭、外国語助手の指導で、専門的な指導を受けることができた
- ・小中学生が同教室で学習することで、お互いに刺激になり、特に中学生の意識が高くなった

- ・ 交流しながら学習を進められたことは、学習意欲の刺激にもなり良かった。
- ・ 英語勉強だけでなく、他教科学習につなげられるような対策・工夫が必要。

#### 【山田町長】

- ・ 先程の異学年交流、実際にいろいろやってみると、副次的だがこちらの想定以上の効果があって良かった。
- ・ ただ、惜しむらくは、情報発信がないこと。佐賀県の取り組み以上の充実した取り組みを行っている。江北町ではこんなことをやっているというのが江北町の魅力にもなる。情報発信も積極的に行ってほしい。

#### 【浪瀬委員】

- ・ 課題に「英語検定のための学習」という意識が強かったので、英語勉強だけでなく他教科学習につなげられるような対策・工夫が必要、とあったが、まさしく学力向上に必要な対策と思われ、十分な検討をしてほしい。

#### 【山田町長】

- ・ この対策は、学習の習慣作りにもつながる。「一点突破、全面展開」とよく言われる。英語という一点を起点に、他の学習にも広げるということ。
- ・ 2年前までは、考えもできなかった取り組み。この2年間の、教育委員会の総合教育会議への取り組みを、行ったことによる成果が大いに出ている。
- ・ 学校教育の中で、競争させず順番をつけないのが当たり前になり、本来あるはずの競争心、向上心まで削がれているように思う。それを補うためにも、英検受験に挑むのは意義がある。

#### 【田中委員】

- ・ 資格は武器になるから、英語だけでなく他にもこんな検定試験があると紹介するのもいい。
- ・ 世の中に出たら競争は当たり前。人を蹴落とすためだけでなく自分を高めるための勉強が必要。
- ・ 進学校に行く子でもほかの子に負けないという、何かしら確かなものを持つ子はそれだけで生きていくことができる。

#### 【山田町長】

- ・ やはりいろんなことをやってみること、巡りあわせが大事。
- ・ 今回の英語の件についての内容は、整理して発信してほしい。

○閉会（山中課長）